

【計算例 ケース 1】

個人市・県民税額の計算例(A さん 55 歳(給与収入)の場合)

給与収入:21,000,000 円

支払った社会保険料:700,000 円

支払った生命保険料(新契約・一般):100,000 円

支払った生命保険料(新契約・介護):100,000 円

支払った地震保険料:10,000 円

給与所得計算

$$21,000,000 \text{ 円} - 1,950,000 \text{ 円} = 19,050,000 \text{ 円} \cdots \textcircled{1}$$

(注意)給与収入額によって計算方法が異なります。

所得から差し引く額の計算(所得控除)

社会保険料控除:700,000 円

生命保険料控除:56,000 円(内訳:新契約・一般…28,000 円、新契約・介護…28,000 円)

地震保険料控除:5,000 円

基礎控除:430,000 円

所得控除計:1,191,000 円… $\textcircled{2}$

税額控除前所得割額の計算

$$\text{課税所得金額:} \textcircled{1} 19,050,000 \text{ 円} - \textcircled{2} 1,191,000 \text{ 円} = 17,859,000 \text{ 円} \cdots \textcircled{3}$$

税率:市民税…6%、県民税…4%

$$\text{市民税税額控除前所得割:} \textcircled{3} 17,859,000 \text{ 円} \times 6\% = 1,071,540 \text{ 円} \cdots \textcircled{4}$$

$$\text{県民税税額控除前所得割:} \textcircled{3} 17,859,000 \text{ 円} \times 4\% = 714,360 \text{ 円} \cdots \textcircled{5}$$

調整控除の計算

③の金額が 200 万円を超える場合

$$\{\text{人的控除の差の合計} - (\textcircled{3} - 200 \text{ 万円})\} \times 5\% (\text{市民税 } 3\% + \text{県民税 } 2\%)$$

$$5 \text{ 万円} - (\textcircled{3} 17,859,000 \text{ 円} - 200 \text{ 万円}) = -15,809,000 \text{ 円} \Rightarrow 5 \text{ 万円} \cdots \textcircled{6}$$

※計算した額が 5 万円を下回る場合は 5 万円

$$\text{市民税調整控除額:} \textcircled{6} 5 \text{ 万円} \times 3\% = 1,500 \text{ 円} \cdots \textcircled{7}$$

$$\text{県民税調整控除額:} \textcircled{6} 5 \text{ 万円} \times 2\% = 1,000 \text{ 円} \cdots \textcircled{8}$$

人的控除の差額

所得税控除－住民税控除＝差額

基礎控除:48 万円－43 万円＝5 万円

合計額:5 万円

所得割額の計算

市民税所得割額: ④1,071,540 円 − ⑦1,500 円 = 1,070,000 円 (100 円未満切り捨て) ……⑨

県民税所得割額: ⑤714,360 円 − ⑧1,000 円 = 713,300 円 (100 円未満切り捨て) ……⑩

定額減税の計算

納税者本人 1 万円 + 控除対象配偶者 (国外居住者を除く) 又は扶養親族 (国外居住者を除く) 1 人につき 1 万円

※令和6年度の個人市・県民税に係る合計所得金額が 1,805 万円以上の納税者は定額減税適用外になります。

定額減税額: 0 円

【年税額】所得割額税額・均等割額税額・森林環境税額 (国税) の計算

市民税額: 3,000 円 (均等割額) ……⑪ 県民税額: 1,500 円 (均等割額) ……⑫

⑨⑩1,783,300 円 (所得割額) + ⑪⑫4,500 円 (均等割額) + 1,000 円 (森林環境税額 (国税)) = 1,788,800 円

年税額 1,788,800 円